

「新庁舎整備等基本構想」を策定しました

令和3年12月23日（木）

市長定例記者会見

新庁舎移転整備等の必要性について（基本構想 1 章）

新庁舎移転整備等の検討経緯

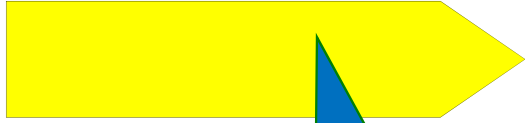
- **平成12年度 合併協定書調印（平成12年9月）**
「将来の新市の事務所の位置については、さいたま新都心周辺地域が望ましいとの意見を踏まえ、新市成立後、新市は、交通の事情、他の官公署との関係など、市民の利便性を考慮し、将来の新市の事務所の位置について検討するものとする。」
- **平成14年度 新市庁舎庁内検討会議**（平成14年度～20年度 計21回開催）
- **平成20年度 さいたま市庁舎整備検討委員会**（平成20年度～23年度 計7回開催）
- **平成24年度 さいたま市本庁舎整備審議会**（平成24年度～29年度）計21回開催
- **平成30年度 審議会答申**（平成30年5月）
- **令和元年度 本庁舎耐震補強工事完了**（平成28年10月～平成31年2月）
- **本庁舎整備検討調査**
- **現庁舎に係る現況調査業務**
- **令和2年度 本庁舎整備等に係る基本的な考え方**（令和3年2月）
- **令和3年度 新庁舎整備等基本構想 策定**（令和3年12月）



基本構想策定に係る市民等意見聴取

● 本庁舎整備等に係る基本的な考え方

(令和3年2月)



市民ワークショップ
8月21、22日、28日、29日
参加者 39名

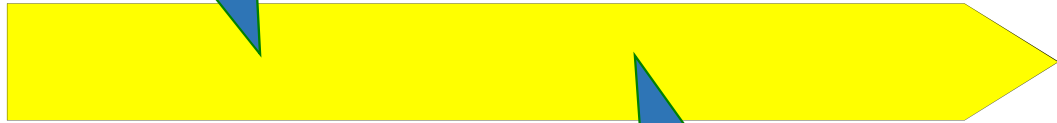
(令和3年10月)

● 新庁舎等基本構想(素案)

タウンミーティング

10月23日~11月13日

参加者：135名
意見数：316件



パブリック・コメント

10月18日~11月22日

提出者数：124名
意見数：268件



意見フォーム 7月28日~ 随時受付 提出者数：72名 項目数：136件

● 新庁舎等基本構想 策定

(令和3年12月)

本庁舎整備等の必要性 ①位置等に係る検討

さいたま市本庁舎整備審議会

- ・ 本庁舎の「基本的な考え方及び機能」の整理
- ・ 「浦和駅」「大宮駅」「さいたま新都心駅」のエリアを候補として審議
- ・ 防災性・シンボル性・交通利便性などの視点で具体的な位置について議論



▲答申を受理(平成30年度)

「さいたま新都心駅周辺（半径800m圏内）」が最も望ましいとの答申を受理

市の調査により、答申で示された条件を満たす3つの土地を比較検討

「さいたま新都心バスターミナルほか街区」を選定

本庁舎整備等の必要性 ②現庁舎の現状

- 建築後45年が経過
- 令和元年度に建物の現況調査を実施
- 鉄筋の腐食や広範囲の漏水が判明



現庁舎の目標使用年数は
60年（令和18年まで）

- 現状の維持管理経費等、今後必要なコストについて、使用年限を前倒して新庁舎を整備することで縮減が可能。

移転時期：10年後の令和13年度を目指すことがふさわしい



▲現在の庁舎



▲配管の劣化状況



▲屋上防水の劣化状況

本庁舎整備等の必要性 ③本市の将来を見据えたまちづくりの推進

本市のまちづくりの方向性

2都心がそれぞれの特徴や強みを生かし都心を一体的に発展させ、都心と副都心をネットワークで結ぶことにより、本市全体が発展していくことを目指す。

- ・ 県都である浦和の文教という強みを生かし、本庁舎移転を契機とした現庁舎地の利活用、（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンによるまちづくりを推進。
- ・ 東日本の対流拠点である大宮の商業という強みを生かし、大宮駅グランドセントラルステーション化構想などを推進。



- ・ 本市誕生の象徴であり、市の中心にあるさいたま新都心に都市経営の拠点として新庁舎を整備



全市的な発展を目指す

目指すべき方向性

新庁舎の移転整備

- ・本市の未来を見据えた全市的なまちづくりの観点から、
10年後の令和13年度に「さいたま新都心バスターミナルほか街区」への新庁舎の移転整備を目指す。

※本庁舎の移転には「さいたま市役所の位置に関する条例」の改正が必要。

現庁舎地のあり方

- ・市民サービスの拠点となる浦和区役所や浦和消防署の機能を残す。
- ・古くから文化、教育の先進地であった歴史等を踏まえ、
「県都」「文教都市」を象徴し、
「多様な世代に愛され、県都・文教都市にふさわしい感性豊かな場所とすること」

新庁舎整備場所



さいたま新都心バスターミナルほか街区
(埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目603番地1,2)

新庁舎整備について（基本構想2章）

新庁舎整備の8つの基本理念

これまでの検討や現庁舎の現状等を踏まえた新庁舎の基本理念

① 本市の都市づくりの一翼を担う庁舎

② 本市のシンボルとなる庁舎

③ DXなど今後の変化に柔軟に対応し、効果的、効率的に行政運営が行える庁舎

④ 防災中枢拠点として災害に対応できる庁舎

⑤ SDGsに配慮した環境にやさしい庁舎

⑥ すべての人が使いやすいユニバーサルデザインを実践する庁舎

⑦ 多様な主体による協働や市民交流が行われる庁舎

⑧ セキュリティに配慮した庁舎

新庁舎の規模と概算費用等

新庁舎の基本理念等を踏まえ、新庁舎の概算面積や概算費用等の見通しについて整理。配置及び構成は、現況のバスターミナル機能の維持、民間施設との複合化の可能性を考慮し、公益複合施設としての一体的な整備を図る方向で検討し、想定される建物構成のイメージ図を作成。

新庁舎の概算面積、約43,000㎡ (現況39,000㎡)

概算面積の算定は、市民利用スペースの拡充と、※国の基準を参考にしつつ、執務室が狭あいである現庁舎の現状を踏まえ算定。

※ 国の基準：国土交通省「新営一般庁舎面積算定基準」
総務省「平成22年度地方債同意等基準運用要綱」

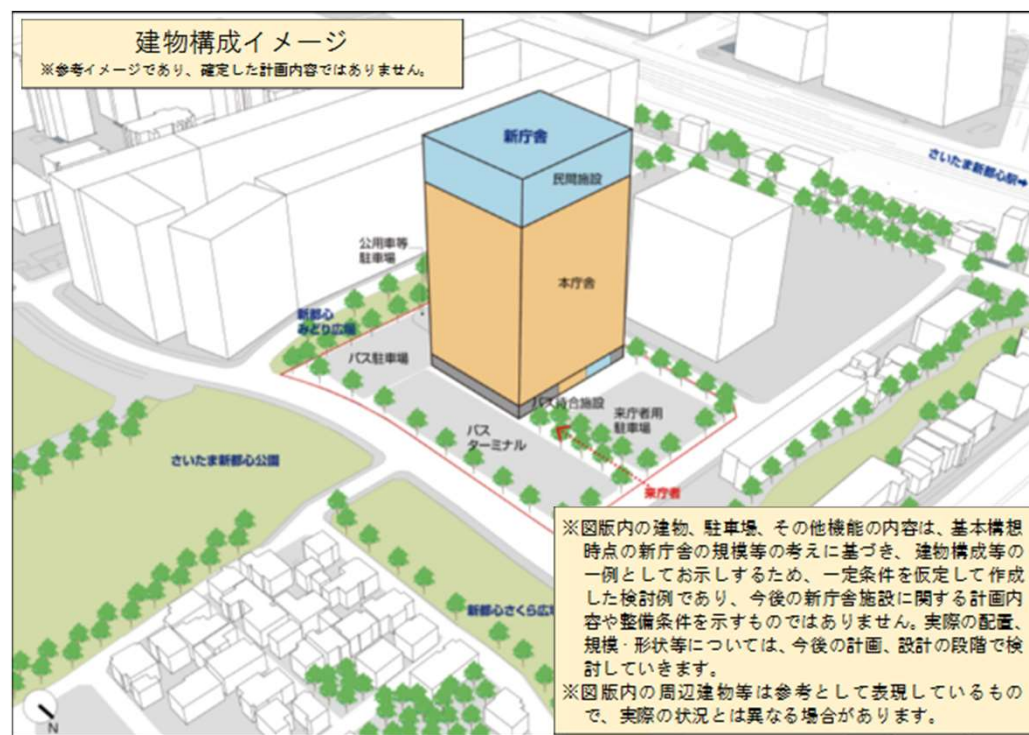
※必要面積の詳細は、今後の各計画段階で精査していく。

新庁舎の概算費用、約221億円

- 本庁舎部分 (43,000㎡) の施設整備費として約215億円
- 建設に係る設計費、バスターミナルに係る解体整備費として約17.4億円
- 民間活力を用いた手法により約11.6億円の財政支出の削減効果。

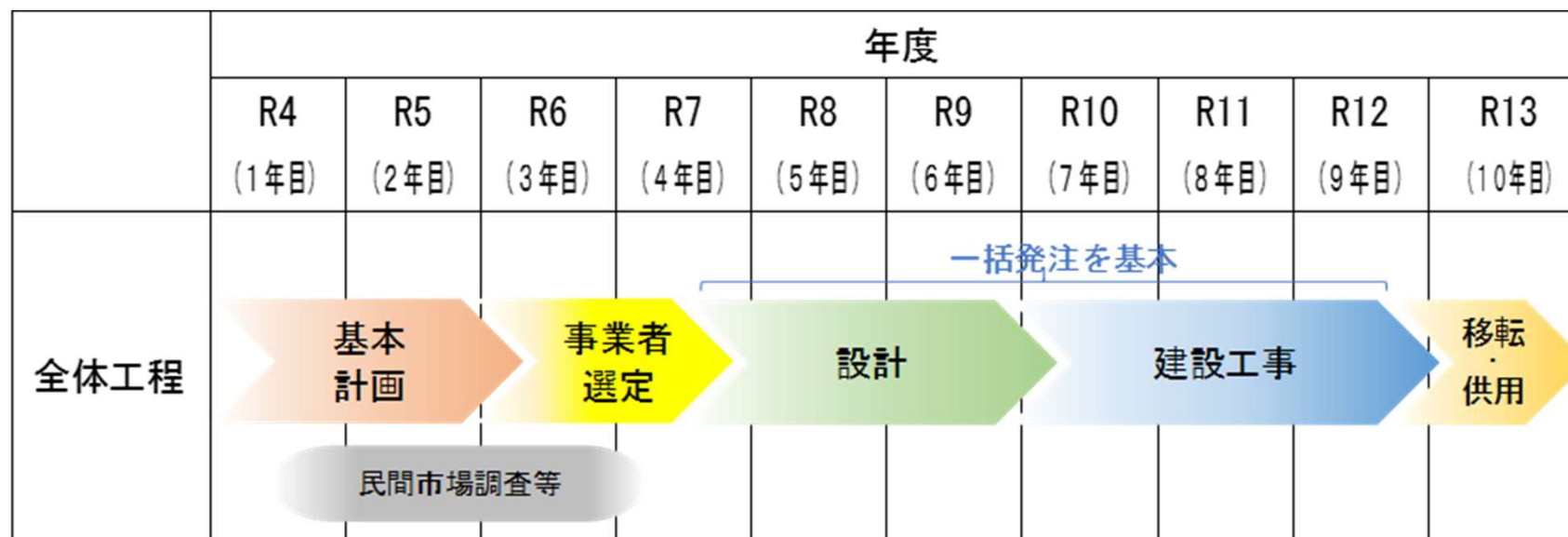
※費用の詳細は、今後の各計画段階で精査していく。

必要面積及び基準階の床面積を踏まえ、概ね20階程度、90～100m程度と想定。



今後の進め方

新庁舎整備への適合性が見込まれる事業手法を踏まえた、供用開始までの概略スケジュール



※各段階に応じて、市民、学識経験者、民間事業者等への意見聴取等を実施する。

※基本計画の検討に当たっては、事業手法の詳細検討を含むほか、必要に応じてPFI等導入可能性調査を実施。

※設計には、一般的な基本設計・実施設計を含む。

※本庁舎の移転には「さいたま市役所の位置に関する条例」の改正が必要。

現庁舎地の利活用について（基本構想 3 章）

基本理念及び目指すべき方向性

●基本理念

本市の都市づくりの考え方や地域特性等を踏まえ、現庁舎地の利活用にあたっての基本理念及び目指すべき方向性は次のとおり。

(1) 「県都」「文教都市」を象徴する

(2) まちづくりに貢献する

(3) 豊かな生活につながる

(4) 本市の更なる飛躍につながる



●目指すべき方向性

「多様な世代に愛され、県都・文教都市にふさわしい感性豊かな場所とすること」

利活用の考え方

文化芸術 機能

- ①本市の歴史、文化、さらには、自然、科学などの未来へのポテンシャルが高い事項について、来館者が幅広く知識に触れ合い、吸収できる機能
- ②ジャンルや世代に捉われない多様な文化芸術についての創造・発信機能
- ③芸術文化活動への支援・人材育成機能

教育 ・ 先進研究 機能

- ①グローバル人材を育成するため、多言語・多文化環境において、世界中の留学生などと共に学ぶ研究機能
- ②世界に誇る技術をもつ市内企業と国内外の大学が連携・協働し、AIやICTなどを活用し、最先端技術の研究を行う研究開発機能
- ③イノベーション機能(インキュベーション機能含む)
- ④医療(スポーツ医科学等)に関する教育・研究機能
- ⑤企業の先進的な研究や専門的なスポーツ科学等について、市民の学びにつながる機能
- ⑥生涯にわたって学びを続けられる機能

市民交流 機能

- ①広場・緑地などオープンスペース等を活かした、市民のコミュニティ形成や、健康でゆとりあるライフスタイルの形成につながる機能
- ②集客施設との併設による交流スペースの整備など、施設を介した交流の場、市民参画の場となる機能
- ③子どもから大人まで幅広い市民が多世代で交流できる機能

「（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン骨子（案）」について

(仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョン

(仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンは、浦和らしい風格ある都市づくりを進めるため、概ね30年後（令和32(2050)年）の浦和駅周辺のまちの姿を展望し、まちづくりの方針を示すことで、市民、事業者、行政等の様々な立場の人々が共有する指針となるもの。

まちづくりビジョン

まちが果たすべき役割
現状・特性・課題

まちの魅力・価値

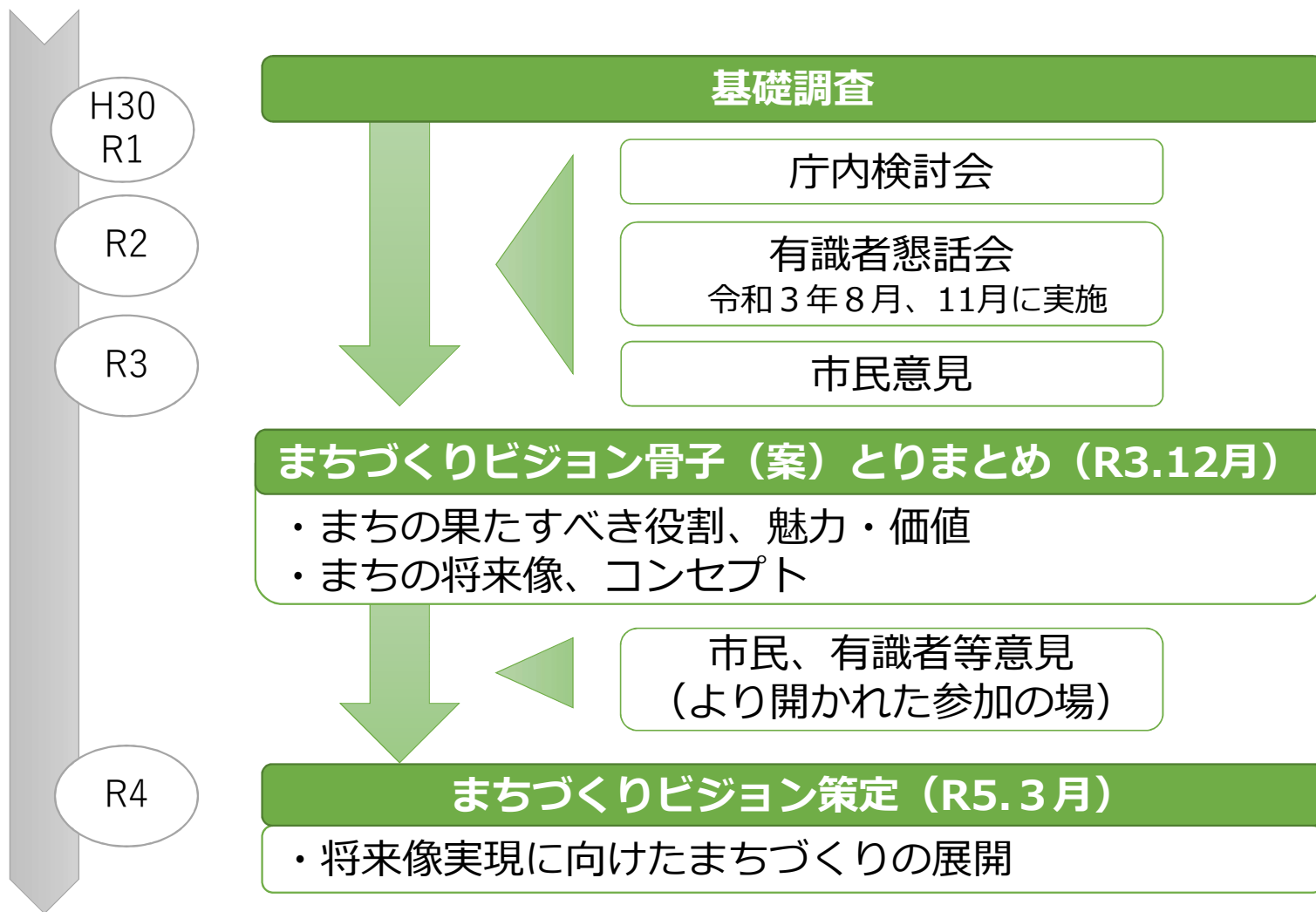
まちの将来像・コンセプト

骨子（案）



将来像の実現に向けたまちづくりの展開、まちづくりの方針・方策

検討経緯



まちの将来像のキャッチコピー

2050年のまちの将来像（キーワード）

総合振興計画における、
都心として浦和駅周辺地区が目指す方向性

『洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心地区』



浦和らしさを表現するキーワード。
まちの将来像を検討する際の素材としていきます。

リ・デザイン・URAWAプライド・浦和ライフ・多様性・住み続けられる持続可能なまち
人中心なウォークアブルまち・人生100年時代・浦和ブランド・回遊性・創造性・上質
洗練・風格・シビックプライド・界隈性・強靱性・レジリエンス・教育の発信拠点
地域の宝・芸術・都市緑化・グリーンインフラ 等

キーワードを参考に、浦和のまちを象徴する将来像のキャッチコピーを検討していきます。

まちの将来像のコンセプト

文化・教育

スポーツ（サッカー等）



商業・業務（経済）

環境・エネルギー

安全・安心

緑・景観

2050年の浦和駅周辺のまち

グローバルな視点で
磨き上げていく
魅力・価値

浦和のまちの個性を生かし
磨いていく
魅力・価値

都心のまちとしての
標準装備



新技術活用（Society5.0・DX等）



新技術で、全体をアップデートしていく

県 都

居住・交通環境



(仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンと現庁舎地利活用等の進め方

